

主婦の声から生まれた“新しい仏壇のカタチ” 家具と徹底して差別化することで、仏壇の魅力をアピール

有限会社 立花佛壇店



立花孝文社長

仏壇・仏具、墓石の販売を営む創業101年の老舗仏壇店、有限会社立花佛壇店（愛媛県宇和島市、立花孝文社長）が開発したコンパクトな仏壇「memorial case 夢so」（意匠登録番号1397533）が、今春の発売以来、注目を集めている。その特徴的なデザインや華やかな色合いだけでなく、その小さな本体の中には、仏壇としての機能がすべて備わっている。



斬新なデザインに緋色が映える



黒とシルバーが生活空間に合う「ステンレス市松」

本来の仏壇の機能を重視

「memorial case 夢so」のコンセプトについて、開発者である立花孝文社長は「家具との差別化」だという。

近年、人々の生活空間が洋式化する中、マンションなどでの安置を考慮して、仏壇は小型化し、またデザインも大きく変化した。そのような状況の中、仏壇の家具化が進み本来はその役割も全く別のものである仏壇と家具の「区別が付かなくなってきた」。立花社長は、このような現状に危機感を抱いていた。

そんな時、仏壇店を訪れる客との会話の中で聞いていた、「おしゃれできちんと祭ることができる」「掃除が楽で場所を取らない」といった声を形にすることを思い立った。主婦層をはじめ、さまざまな消費者の意見も反映しながら、「若い人にも受け入れられる仏壇」を目指したという。

とは言え、仏壇であるからには、仏壇としての機能が充実し、その役割をしっかりと果たせなければならない。

そこで、小型でありながら本尊と位牌をあるべき場所に安置できるよう、さまざまな工夫を凝らした。例えば、扉の内側を有効に活用することで、位牌を祭る場所も遺影写真を飾るスペースもしっかり確保。転倒の心配が無

いようマグネットも埋め込んだ。その結果、本尊は中央に祭れるようになった。位牌の下には小物をしまえるスペースも設けられており、遺骨や遺品など、故人の大切な思い出の品も収納できるようになっている。祭壇はスライド式を採用し、仏具を飾ったまま扉の開閉もできる。さらに国産にもこだわって、唐木仏壇の本場である徳島県で生産している。

サイズは台もセットで幅560mm、高さ455mm、奥行き340mm。色は、古来高貴な色として伝えられている緋色（朱色）をイメージカラーに、タモ市松、ウォルナット市松、紫檀コンビ、緋、ステンレス市松、緋・ブラック市松の6種類がある。また、欄間も2タイプあり合わせてそれぞれ12タイプの中から、ライフスタイルに合わせて自由に選べる。

もうひとつ小売価格が決められているという点も「memorial case 夢so」の特徴として挙げられる。販売価格が確定しているため、「価格競争に陥る心配もない」という考えだ。インターネット上で販売する場合でもこの小売価格は厳守されることになっており、今後、各店の販売力での競争となりそうだ。



和をイメージした外観と洋をイメージした店内

